都立武蔵丘高等学校

【校長】 西島　宏和　　【生徒数】 ９１６名　　【学級数】 ２４学級

【実態・目標】

○身近ではないため、性感染症に無関心な生徒が多い。
⇒　性に関する正しい知識を得ることで性に関する適切な行動をとることができる。

○スクリーンタイムが長く、睡眠時間が不十分な生徒が多い。
⇒　睡眠が日常生活に大きな影響を持つことを認識し、自らの行動を変容させることできる。

目標
・自らの健康への意識を高め、生涯健康を保持増進できる資質能力の育成

【取組】

○保健における生涯の健康の大切さを知る授業
・「生涯の健康の大切さを考えるリーフレット」を活用した授業やグループワークを取り入れた授業を実施し、理解を深める。

○産婦人科医を招へいした授業の実施
・性やがんに関する内容を中心として生涯の健康の大切さについて理解を深める。

【成果】

○生徒の意識に関する成果
産婦人科医の講演を通して自身の健康について振り返り、適切な意思決定をしようとする意欲が高まった。

○生徒の態度に関する成果
自分だけでなくパートナーや仲間の心身の健康も意識し、気遣うことの大切さを認識した。

○その他（教員の授業改善など）
産婦人科医の授業では教員も一緒に授業を受けることで内容や授業展開について学ぶことができた。また、授業後に講師から質問の回答をいただき、性教育への意識が向上した。

【課題・改善】

○学んだ知識を生かし、自らの健康課題についての課題を認識することはでたが、さらに自らの行動を変容させることが必要である。

➡　【今後の取組】
○産婦人科医以外の外部講師による講演を実施により学校全体で健康教育の充実を図っていく。

【取組（詳細）】

○ 保健における活動

保健の授業では､「生涯の健康の大切さを考えるリーフレット」を活用した話し合いや一人１台端末を利用し、テーマに沿った調査、発表を行うグループワークを行い、理解を深めた。
グループワークでは、それぞれの班が割り当てられたテーマについて話し合い、身近な疑問を取り上げて発表を行った。聞いている人が分かりやすいようにプレゼンテーションを行ったり、クイズ形式にしたりと、各班が工夫していた。調査、発表を通して、健康についての考えを正しく身に付け、現代社会に存在する健康や性に関する課題に対応できる力を身に付けることができた。

保健の授業
「生涯の健康の大切さを考える」
リーフレットを活用

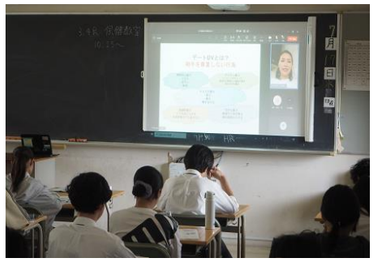
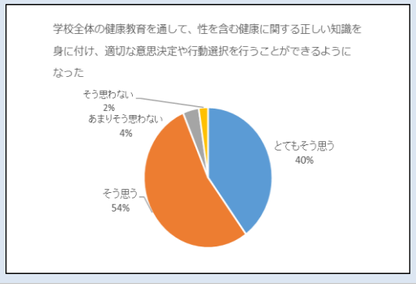
○ 産婦人科医を招へいした公開授業の実施

●授業内容
・性の自覚について
・同意・SNS での関わりについて
・妊娠・避妊について
・性感染症・子宮頸がんについて
・不妊について

●生徒の様子
視聴覚室で授業を実施し、各教室に配信をする形態で実施したが、スライド資料が具体的で生徒は関心をもって講義を聞いていた。

●外部人材を活用した授業について
産婦人科医からの授業を受けることで性に関する理解を深めることができた。

●生徒の感想（事後アンケートより）
・受講前の知識で満足していたが､知らない知識がたくさんあった。
・今までなんとなくしか知らなかったことをより細かく知ることができてよかった
・今後自分が性関係について関わりをもつ可能性もあるので､その時､性感染症や､デート DV など自分自身の身を守るために気をつけながら生活していこうと思えました。



公開授業の様子